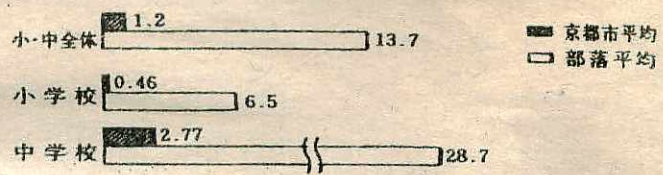


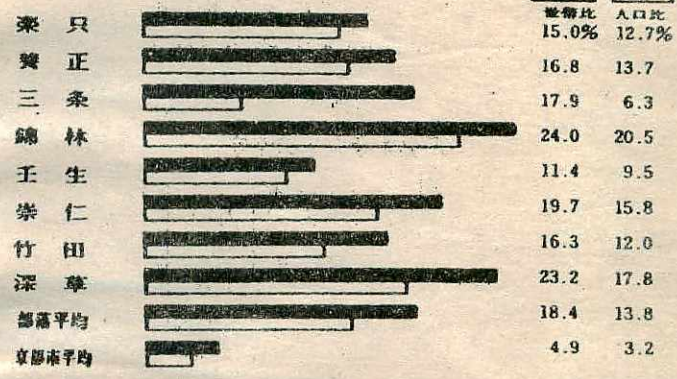
戸数および人口密度

種別	面積 (m <sup>2</sup> )	戸数	戸数密度 (戸/ha)	人口	人口密度 (人/ha)
桑只	38,892	336	86.4	1,667	429
養正	71,372	387	54.2	2,000	280
三条	28,724	383	133.0	1,800	627
錦林	22,243	154	69.2	834	374
壬生	33,535	224	66.8	1,108	330
崇仁	209,952	1,246	59.3	6,312	301
竹田	41,956	368	87.7	1,768	471
深草	30,136	262	86.9	1,203	399
計	476,810	3,360	70.5	16,692	350
中京区平均	7.50	30,809	41.1	155,522	207
京都市平均	548.50	216,800	3.9	1,101,854	20.0

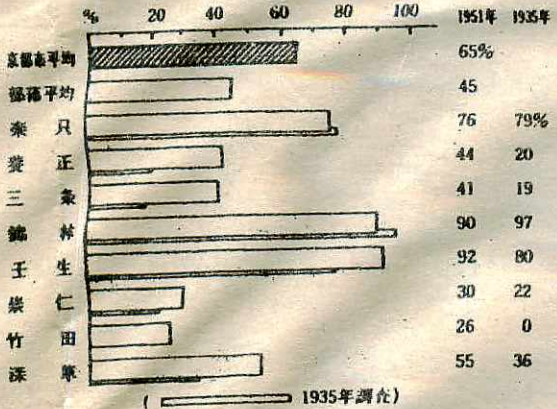
義務教育の不就学率



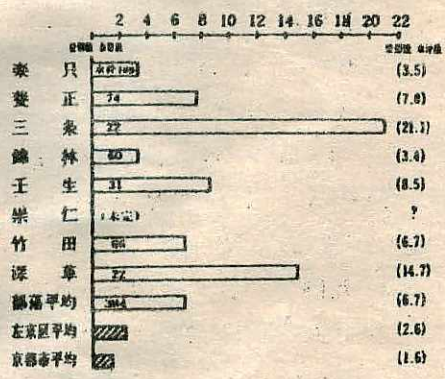
生活保護率 (単給)



水道普及率



上水道1栓当り利用世帯数



1世帯当り電灯点灯数比較



ガス使用の普及率比較





<資料2>

長欠・不就学の子どもたち

1か月以上の欠席者の調査(1951年実施)

	中 学 校			小 学 校		
	生徒数	長欠者	%	児童数	長欠者	%
奈良県全般	45,816	2,293	5.0	96,839	796	0.8
同和地区全般	3,314	1,149	34.7	7,826	603	7.7
比 率	7.2%	50%	6.9倍	8.1%	7.56%	9.6倍

(奈良県同和問題研究所「明けゆく社会」)

<資料3>

「オール・ロマンス」事件

(前略) ことの重大さにはじめて気づいた市長と日をあらためて、話し合いがじっくりとおこなわれました。

「教育長にうかがいます。長欠・不就学の児童が多くて、教育行政の上で困っておられるところはどこですか」

「消防長にうかがいます。大変道が狭くて、火事が起きると消防車が入っていけないところ、消火栓がなくて困っておられるところ、そういう住宅の建て込んでいて、大火事の心配のあるところはどこですか」

「衛生局長にうかがいます。結核患者の多いところ、赤痢や腸チフスなど伝染病が多発して、衛生行政の上で問題をかかえている地区はどこですか」

「民生局長にうかがいます。生活保護の受給家庭の率が、とびぬけて高い地区をはっきり示してください」

交渉の席には、京都市の地図がひろげられていたといえます。市長をたすける各理事者や局長が、つぎつぎに質問攻めにあい、答弁をしてゆきます。

土木、建設、水道、住宅…。

「今の答えに出た地区、町内、学区に、赤や青や黄色のエンピツで○じるしをつけてゆくと、みんな重なります。ここが、私達の住んでいる部落です。市長は、S(小説の作者)が悪い、とS個人のせいになされたが、京都市の行政の中で集中的に差別の実態があつて、その差別が放置されている。なんの手も打たれていない。これが、差別行政ではありませんか。差別を放置し差別の現実を肯定するのではなく、市行政の責任で行政の停滞を打ち破り、部落差別をなくする取り組みをすべきではありませんか」(後略)